

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4079700219		
法人名	医療法人 赤池協同医院		
事業所名	グループホーム あおぞら (コスモス・ひまわり)		
所在地	〒822-1101 福岡県田川郡福智町赤池470番地2号 Tel.0947-28-9280		
自己評価作成日	令和元年06月20日	評価結果確定日	令和元年08月06日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel.093-582-0294		
訪問調査日	令和元年07月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体が医療機関であり、密な医療連携がとれ充実した医療で、入居者や御家族には安心を感じていただいていると思います。そのため施設での看取りを希望される御家族もおられ、医療機関と連携し御家族の希望に添えるよう努めています。毎日の体操・リハビリ運動・施設内散歩を行い筋力低下予防に努め、管理栄養士のたてた献立や工夫を凝らした調理での美味しい食事の提供、職員と一緒に食べる楽しい雰囲気での食事で、明るい日々を過ごせるようにしています。また、本人の出来る事はして頂き、出来ないところのサポートを行い、生きがいや自信を持って過ごして頂きたいと思っています。お一人お一人に即した個別サービスの提供に努め、安心して穏やかな毎日が送れるように支援をおこなっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「あおぞら」は、認知症高齢者が重度化しても慣れ親しんだ地域の中で、最後まで安心して暮らせる事業所を目指し15年前に開設した定員18名のグループホームである。母体医療法人の月1回の往診と訪問看護、ホーム看護師、介護職員と連携を図り、充実した医療体制の中で、看取りの支援にも取り組んでいる。食事は利用者の嗜好を聴きながら献立し、美味しい手料理を利用者と職員と一緒に食べて完食し、リハビリ運動の熱心な取り組みと合わせ、利用者の健康増進に繋げ、利用者や家族の安心と信頼を得ている。「ありのままの自分でいられる場所づくり」を理念の柱とし、優しい人柄の職員が、利用者一人ひとりに寄り添い、居心地の良い環境の中で生きがいのある暮らしの支援に取り組む、地域福祉事業の拠点として期待が膨らむ「グループホーム あおぞら」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に理念を唱和し、理念に基づいての対応、介護を実践している。	ホームが目指す介護理念を見やすい場所に掲示し、毎日の申し送り時に職員が唱和して、理念の共有に努めている。職員は理念の意義を理解し、利用者一人ひとりが、自由で、ありのままの暮らしの支援に取り組んでいる。また、職員は常に理念を意識して、日常介護に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事での外出や買い物、図書館で開催されるイベントなどにも参加したり、認知症カフェを行い地域との交流を図っている。	高校の職場体験や地域のボランティアの受け入れを継続して行っている。同一法人のデイケアのイベントに参加して、大相撲力士の慰問を受ける等、利用者の楽しみなひと時である。利用者職員は、近所のスーパーに買い物に出かけ、親しくなって挨拶を交わす等、地域の一員として交流に努めている。	利用者の高齢化に伴い、地域に出かけての交流は難しくなっているが、職員が地域の行事や活動の手伝いに出向いたり、地域の方が訪ねやすい、地域に開かれたホームを目指すことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のグループホームが連携をとり、地域全体の認知症高齢者のサポートを心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を2回/月のカンファレンス、職員ミーティングで、検討して利用者の処遇向上に努めている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、複数の家族や知見者、地域包括支援センター職員の参加がある。ホームの運営や取り組み、ヒヤリハットや事故等の報告を行い、参加委員からは、質問や要望、情報等を提案して話し合い、意見や要望がホーム運営や業務改善に反映されるように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	6回/年のグループホーム協議会会議に参加させて頂き、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホーム協議会に職員が積極的に参加し、行政職員や他事業所と情報や意見を交換して、連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が2名出席し、ホームの現状を理解してもらい、アドバイスや情報提供を受けて協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを運営理念にも明記し、職員にも研修・指導の徹底をはかり取り組んでいる。又玄関の施錠もしていない。	身体拘束の研修会を職員会議や内部研修会の中で開催し、職員間で話し合い確認する機会を設け、言葉遣いや薬の抑制も含めた身体拘束が、利用者にも与える弊害について職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関やユニット間を開放し、職員の見守りの中で利用者が自由に行き来出来る環境を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、伝達研修を実施、虐待は絶対あってはならないことを周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、伝達研修を実施、玄関にはパンフレットをいつでも説明出来るように準備している。又、入居時に必ず説明するようにしている。	権利擁護の制度について、外部研修に職員が参加し伝達研修で職員間の理解に努めている。資料やパンフレットを用意して、入居時に、利用者や家族に説明し、必要時には関係機関に相談しながら制度の活用につなげる等、利用者の自己判断が困難になっても、利用者の権利や財産が不利益を被らないための支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時重要事項の説明を行い、利用者家族等に十分説明して納得して頂いている。解約時も同様である。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見、訪問時御家族様の意見、要望を聞き2回/月のカンファレンス、職員ミーティング、申し送り事項にて情報を共有し改善に結び付けている。	職員は面会時に家族とコミュニケーションを積極的に取り、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。ホームの夏祭りでは、家族同士がコミュニケーションを取りながら交流を行っている。面会や話す機会の少ない家族には、請求書に手紙を添えて毎月報告し、電話をかける等して、家族の意見や要望を聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2回/月のカンファレンス、職員ミーティングをして意見交換をしている。	毎月2回、職員会議の中でカンファレンスを実施し、職員間で気付きや意見を出し合っている。職員の意見や要望、心配な事等が話し易い環境の中で、活発に意見交換が行われ、利用者の介護計画や業務に反映させている。また、法人の全体朝礼に管理者が参加し、職員の意見や要望を報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員より勤務希望を聞き入れたり、目標をもって働ける環境整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては性別や、年齢を理由に対象から排除することはない。今出来ることから始めて育てるという方針で、指導を行っている。又、外部研修に参加の機会を持つように努めている。	職員の募集は、年齢や性別、資格などの制限はなく、採用後は、外部や内部の研修会に参加して、介護技術の向上を目指している。管理者は、職員の特技や能力を把握して、適材適所の役割分担を行い、職員の休憩室やロッカーを整備し、休憩時間や希望休、勤務体制に柔軟に配慮して、職員が生き生きと働ける職場を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	権利擁護や虐待の防止の研修を行い、人権教育に取り組んでいる。	利用者の人権を守る介護の在り方について、管理者と職員が話し合い常に意識づけを行っている。職員は理念の意義や目的を理解して、利用者が自分らしく生きがいを持って勤務出来るように、個別支援に取り組んでいる。また、毎年人権研修を行い、啓発活動にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加と、内部でも勉強会を行っている。職員一人一人の力量に応じた勤務体制をとっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	6回/年グループホーム協議会会議に参加し、研修を計画して質の向上に取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が求めている事を納得する迄、話し合うようにしている。職員全員で傾聴の姿勢で見守るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が納得する迄話し合いの場を持ち、出来る事は受諾している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスの対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来る事はして頂き、出来ないことをサポート又は、一緒に行って対応に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭的雰囲気という理念の元に接しているので、入居者さんと職員ではあるが、家族でもあるという気持ちで接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の言われることに傾聴して御家族様にもお話を聞き、御家族、友人、知人の関係が継続できるように積極的に支援している。	近隣からの入居の利用者が多く、利用者の家族や知人、友人の面会も多い。家族同士も知り合いが多く、馴染みの関係である。入居前からの行きつけの美容院に通ったり、孫の結婚式に出席する等、家族と協力しながら、利用者が長年築いてきた人間関係や、地域社会との関わりがホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している利用者に対しては、職員が声かけし他の利用者の方と、ふれあいがもてるように一緒に話をしたり、ゲームを楽しむなど努力している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要とする利用者、御家族には対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴の姿勢で話を聞き、本人の意向を第一にしている。アセスメント表の課題をスタッフで話し合っている。	勤務年数の長いベテラン職員が中心となり、日々の暮らしの中で利用者の思いや意向の把握に努めている。利用一人ひとりの思いや意向を聴きながら、職員間で情報を共有し家族や関係者に相談して、利用者の思いの実現に取り組んでいる。意向表出の困難な利用者には、職員が利用者寄り添い優しく話しかけ、思いに近づく工夫をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、御家族様よりのケアアセスメントにより情報収集し、サービスに役立てている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を観察し、出来る事はして頂き、見守りながら現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書はケアマネジャー、計画作成担当者が作成しているが、内容についてはケアカンファレンスにおいて、課題を話し合っている。	家族面会時に担当者会議を開催し、利用者や家族の意見や要望、気になる事等を丁寧に聴き取り、毎朝の申し送り時や、月2回行うカンファレンスの中で職員間で検討して、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。毎月モニタリングを行い、利用者の急変時には家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者さんとの会話や様子など、気付いた職員が記録する様にして、上司に報告、カンファレンス、職員ミーティングにとりあげ情報共有し、話し合っ て介護計画につなげている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとしての支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる演奏会や歌をホーム内で開催して、楽しんでいただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関であり緊急時には対応してもらえる。又1回/月の往診を行っている。かかりつけのある入居者には、引き続き医療機関との連携をとり継続的な医療を支援している。	母体医療法人医師による定期的な往診と毎日の訪問看護師、ホーム看護師(2名)、介護職員が連携し、利用者の小さな変化も見逃さず、安心の医療連携体制が整っている。かかりつけ医の受診は、家族と職員が協力しながら同行して、継続受診が出来るように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師の毎日の訪問と職員の中にも2人看護師資格者がいる為、支援は出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が医療機関であるため、赤池協同医院より直接の情報収集、又他の医療機関の場合家族よりの情報、場合によっては他の医療機関と直接連携をはかっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体が医療機関であり医療連携体制をとっているため重度化や終末期に向けた支援について取り組んでいる。職員全員が状態把握できるようにその都度状態報告をしている。看取りも行っている。	契約時に、重要事項説明書を基に、ホームの方針を利用者や家族に説明し、理解を得ている。母体医療法人医師の往診と訪問看護師、ホーム看護師、ペーランの介護職員が協力して医療、介護に取り組み、看取りの支援にも取り組んでいる。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と密に連絡を取りながら、利用者が安心して終末期を過ごせる環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体である赤池協同医院との連携と、看護師が常備勤務している。緊急に備えてAEDの講習は受けている。AEDは母体に備え付けている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の災害、消防避難訓練を行っている。母体の医療機関と地域との協力体制は出来ている。	年4回の非常災害に備えた避難訓練を実施し、1回は消防署の参加を得ている。昼夜想定で行い、通報訓練、水消火器での消火訓練、ホーム駐車場への避難誘導訓練を行い、母体医療機関と協力して駆けつける体制を整え、利用者全員が安全に避難場所で待機出来る体制を整えている。	非常災害時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品(懐中電灯、カセットコンロ等)の準備が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別化を考えながら一人一人の人格を尊重し、プライドを傷つけたり、プライバシーを侵害する事が無いように対応している。	利用者のプライバシーを守る介護サービスについて、職員会議の中で常に話し合い、利用者一人ひとりの個性や、生活習慣を把握した職員は、利用者のプライドや羞恥心に配慮した言葉かけや対応を行い、ホームでの暮らしがその人らしく、居心地の良いものになるよう日々努力している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	残存機能を大切にしながら日々の生活の中で出来る事はしていただき、何事に関しても本人に聞くようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一日の流れは決まっているものの、入居さんのペースに応じて、臨機応変に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容に来ていただきそれぞれの希望に応じ対応している。又、朝食後おしぼりを用意したり、起床時には身だしなみを整える等をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は力量に応じたことを一緒にしたり、台拭き等をお願いしたりしている。職員が間に入り入居者と一緒に、食事をすることで和やかな雰囲気を作り、食べこぼし等についても、さりげなくサポートをしている。片付けは出来る人は各自されている。	母体医療法人の管理栄養士が作成したメニューを基に、職員手作りの美味しい料理を提供し、利用者の横に職員が座り、同じ料理と一緒に談笑しながら食べる楽しい食事の時間である。鏡開きをしてぜんざいを作ったり、手作りの梅が枝餅を振舞う等、利用者が喜ぶおやつ作りにも取り組んでいる。また、気分転換を兼ねて、外食ツアーを企画し外での食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体である赤池協同医院の管理栄養士による献立に栄養バランスは出来ている。一人一人の嗜好や状態に応じてミキサー食、キザミ食等に対応支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の必要に応じてチェック表を作り、排泄パターンを把握し、早めの対応をして能力に応じた支援を行っている。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握して、早めの声掛けや誘導を行い、重度化の利用者にも、本人が訴えた時にはトイレ誘導を行なっている。布パンツにパットの方やリハビリパンツの方等、利用者の状態を見ながら柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立、毎食後10時、15時に水分補給を行い、毎日10時に体操、14時30分に3回／週リハビリ運動、その他の日は体操を行っている。又、ドクターの指示にて薬を処方してもらうこともある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には3回／週、曜日を決めています。希望がある場合は出来る限り、希望に沿うようにしている。	入浴は利用者の希望や体調に配慮しながら、週3回を基本とし、ユニット毎に曜日を変えて入浴出来るようにして、隣のユニットでも入れるよう柔軟に支援している。また、入浴を拒む利用者には、日時をずらしたり、職員が代わって声掛けし、拒否が強ければ無理強いはせず、清拭や足浴に変更し清潔保持に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本昼間活動していただいておりますが、昼食後ウトウトしている入居者は30分位お昼寝をして、夜の睡眠の妨げにならないようにしている。夜眠れない入居者には、落ち着くまで付き添っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前、使用法、薬の作用、等を入居者ごとにファイリングして、いつでも見れるようにしている。薬の変更は申し送りノートに書き注意事項、観察ポイントも書くようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、洗濯物たたみ、清掃、園芸等、入居者の力量に応じて役割を持ってもらえる様な、場面作りの支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的には、水曜日に買い物に行くように決めている。地域行事の参加、花見、外食の機会の支援をしている。	利用者と職員は、大型ショッピングモールや道の駅に出かけ、買い物や外食を楽しんだり、家族の協力で外出、外食に出かける等、利用者が戸外に出かけ気分転換出来るよう支援している。鯉のぼり、紫陽花、コスモス見学、紅葉狩り等、気候の良い時期には外出して利用者が季節を感じられるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の希望や、力量に応じて支援している。又入居者によっては自分で管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも出来るように玄関に設置している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物品は木製の物を多く使用しリビング、奥の方には畳敷きの場所があり、家庭的雰囲気になっている。又玄関には季節の花を飾ったり、壁画等で季節感を取り入れている。	広々とした明るいリビングに、家庭的な家具を設置し、温かみのある共用空間となっている。リビングルームでは、お茶の時間の前に行う体操や午後からのリハビリ運動、塗り絵、洗濯物たたみ、雑巾縫い等、利用者が、生き生きと暮らせる環境である。高台にあるので、リビングルームからの眺めは素晴らしく、鶯の鳴き声を聴きながら、居ながらにして季節を感じられる暮らしである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、畳敷きの部分と併せて、それぞれ思い思いの場所で過ごせるようになっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等、馴染みの物を持ち込んでもらい、落ち着いて過ごせるようにしている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が使い慣れた家具や寝具、身の回りの物を持ち込んでもらい、利用者の居心地の良さとは何かを考え、検討しながら、本人が安心して過ごせるよう配慮している。また、室内は清掃が行き届き、家族と協力して整理整頓を行い、利用者が居心地良く過ごせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは既存のマークと別に大きな字で表示、又居室では部屋の前には写真を貼り、名前を書いて間違いのないようにしている。		